

特集 もう一步進んだ退院調整のために

急性期を脱した患者が、住み慣れた地域・環境で療養生活を送るために必要とされる訪問系サービス。しかし、病院側の在宅への理解が不十分であるために、退院調整がスムーズに進んでいない現状があります。在宅の実態が浸透していない病棟に対し、訪問看護師がどう働きかけることで、病棟から在宅へよりスムーズな移行が可能になるのでしょうか。もう一步進んだ退院調整の実現をめざします。

病院の地域連携室からみた訪問看護

——訪問看護認定看護師としての気づき 杉原みずほ
大病院の医師・看護師とどう連携すればいい? 唐渡敦也
在宅と病院、職種間で言葉が違う! 齊藤美恵
病院の意識はこう変える 小笠原文雄

■特別記事

在宅でも実行可能な呼吸リハビリテーション(基礎編) 安部能成

■連載

マグネットステーションインタビュー 木村憲洋/訪問看護時事刻々 石田昌宏/在宅ケア もっとやさしく、もっと自由に! 秋山正子/訪問看護普及・拡大プロジェクト 齊藤訓子ほか/訪問看護による看取りの検証 菊井和子ほか/せんねん村村長 老いを地域で活かす 中澤明子/精神科医の家族論 服部祥子/ほんとの出会い 岡田真紀/お母さんといっしょ 横谷順子

編集後記

●「廃用」という漢字からその意味が伝わりにくい。とても大事なことで、もっとわかりやすい表現ができないものかと思います。歩かないと手足の筋力がなくなるように、口から食べることをしなくなると口腔内の機能が衰え、舌も萎縮していく。廃用予防は生活の場である在宅で必須のケアであることがわかります。少し違うかもしれませんが、個人的にはかつての校長訓示「習慣は第二の天性」が思い出された特集でした。……伊藤
●「マグネットステーション インタビュー」での梶原氏の言葉、「医師はあくまで治療をする人。抱えている病気を障害として、その医療のどこをどう変えていけばこの子なりの日常の健康に活かせるかを考えるのが、看護師の仕事ではないでしょうか」に、看護師だからこそ発揮できる力をまたひとつ教示いただいたように思います。「訪問看護普及・拡大プロジェクト」では青島氏に「看護職員による居宅療養管理指導」につながったモデル事業について改めて解説をお願いいたしましたのでご覧ください。……富岡

訪問看護と介護 第15巻 第2号(通巻164号) 2010年2月15日発行(毎月1回15日発行)

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo©2010, Printed in Japan

1部定価1,260円(本体1,200円+税5%) 年ごめ予約購読料13,200円(年間12冊, 税込, 送料弊社負担)

電子ジャーナル閲覧オプション付 18,200円(税込, 送料弊社負担)

発行:株式会社 医学書院/代表者:金原 優/販売部:03-3817-5659/社内案内:03-3817-5600

『訪問看護と介護』編集室:直通03-3817-5787 FAX 03-5804-0485 担当:富岡・伊藤・早田

E-mail houmon@igaku-shoin.co.jp 医学書院ホームページURL <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

〔JCOPY〕<(社)出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(社)出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969, FAX03-3513-6979, E-mail info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。本誌掲載論文・記事のタイトル頁最下段に記された「1341-7045/10/¥250/論文/JCOPY」は、1論文1回複写につき250円要することを明示したものです。これは表示のない論文等にも適用されます。JCOPYへのご連絡の際には、筆頭著者名・論文名と併せて本表示をご提示くださるようお願いいたします。